

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都堀川五条ホテル計画	階数	地上10F
建設地	京都府京都市中京区堀川五條(14-0-1, 14-0-2, 14-0-3, 14-0-4, 14-0-5, 14-0-6, 14-0-7, 14-0-8, 14-0-9, 14-0-10, 14-0-11, 14-0-12, 14-0-13, 14-0-14, 14-0-15, 14-0-16)	構造	S造
用途地域	商業地域, 防火地域, 準防火地域	平均居住人員	230 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年12月10日
敷地面積	633.62 m <sup>2</sup>	作成者	北和建設株式会社
建築面積	506.59 m <sup>2</sup>	確認日	2019年12月11日
延床面積	4,535.49 m <sup>2</sup>	確認者	北和建設株式会社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>温暖化影響チャート

☆☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算

①参照値	184 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )	100%
②建築物の取組み	46	84%
③上記+②以外の	46	84%
④上記+	46	84%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

音環境	3.1
温熱環境	2.6
光・視環境	2.7
空気環境	3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

機能性	2.7
耐用性	3.0
対応性	2.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.6

生物環境	1.0
まちなみ	4.0
地域性・	2.5

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

建物外皮の	4.2
自然エネ	3.0
設備システ	2.9
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

水資源	3.4
非再生材料の	3.3
汚染物質	3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

地球温暖化	3.6
地域環境	2.2
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内環境、サービス性能への配慮を行う。</li> <li>・敷地内外環境に配慮している。</li> <li>・エネルギー、資源マテリアル確保に努めている。</li> </ul>	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・遮音性能、昼光率、換気量に配慮している。	・高い天井高を確保している。・給排水管は上位3種がB以上、Eは不使用としている。	・景観条例に掛かり許可を得ている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・建物の熱負荷抑制に努めて等、省エネルギー性能への配慮を行っている。	・自動水栓に加え、節水型便器の採用している。・LGS、OAフロアの採用等、リサイクル性に配慮している。・防水工事のプライマー採用等、化学物質採用削減に努めている。	・LCCO <sub>2</sub> 排出率の削減に努め、地球温暖化防止に努めている。・チェックリストの過半を満たし、広告照明無し等、光害の抑制に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される